

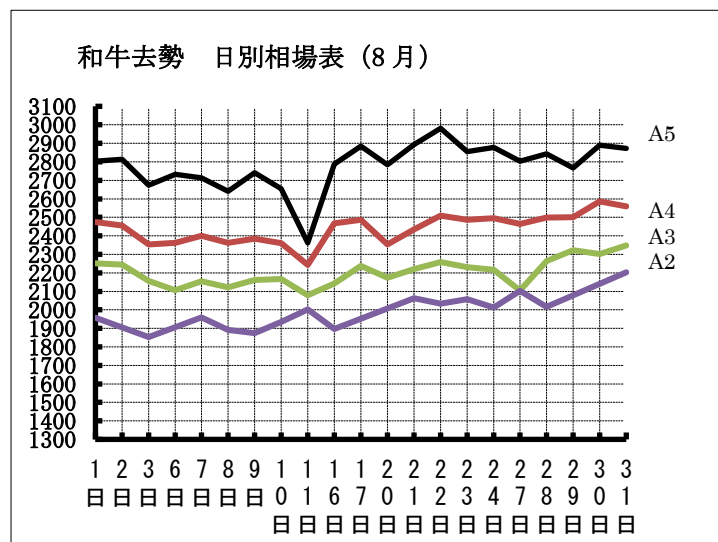
月刊しばうら

2018年9月号

大動物事業部

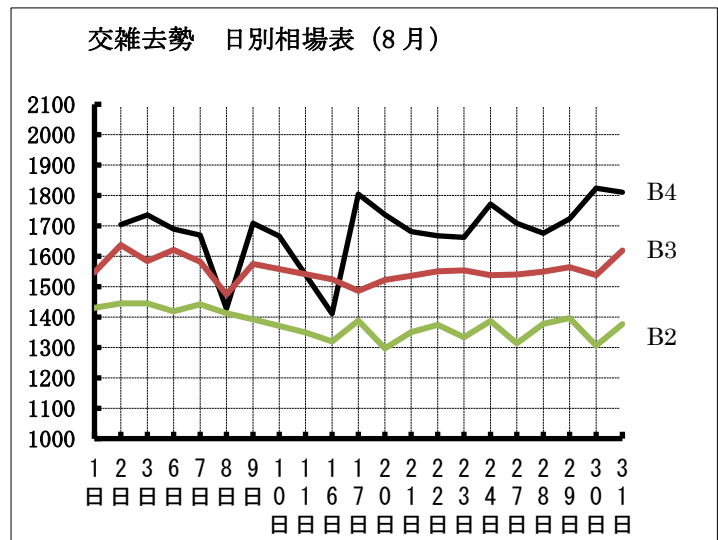
<8月の相場動向>

和牛去勢 A5 が前月比 39 円安の 2,795 円（前年同月比 45 円高）、A4 が 25 円高の 2,446 円（同 95 円高）、A3 が 42 円高の 2,208 円（同 168 円高）、A2 が 26 円高の 1,974 円（同 210 円高）となり、交雑牛去勢は B4 が 1 円高の 1,688 円（同 16 円高）、B3 が 24 円高の 1,558 円（同 112 円高）、B2 が 37 円高の 1,389 円（同 238 円高）となった。末端流通では、連日の猛暑日や天候不順の影響などで末端需要は低迷状況にある中、枝肉相場は全般に強保合いの相場となった。



和牛去勢 (月平均)

A5	2,795 円	(前年同月比 101.6%)	(前月比 98.6%)
A4	2,446 円	(104.0%)	(101.0%)
A3	2,208 円	(108.2%)	(101.9%)
A2	1,974 円	(111.9%)	(101.3%)



交雑去勢 (月平均)

B4	1,688 円	(前年同月比 101.0%)	(前月比 100.1%)
B3	1,558 円	(107.7%)	(101.6%)
B2	1,389 円	(120.7%)	(102.7%)

乳牛去勢 (月平均)

B3	上場なし		
B2	957 円	(前年同月比 102.4%)	(90.7%)

<9月の全国出荷頭数予測>

7月の食肉流通統計による全国の牛と畜頭数は、前年比 5.1%増の 9 万 4,617 頭。和牛は 6.5%増の 4 万 2,829 頭、交雑牛は 7.7%増の 2 万 2,254 頭、乳牛去勢が 4.5%減の 1 万 5,215 頭と発表した。9月の出荷予測頭数は、前年比 4.2%減の 8 万 1,400 頭と予測している。品種別にみると和牛は 4.4%減の 3 万 3,300 頭、交雑種は 0.6%増の 1 万 9,500 頭、乳用種は 7.5%減の 2 万 7,400 頭で、和牛と乳用種それぞれ減少予測としている。東京食肉市場の 9 月のと畜頭数は 6,700 頭を予定しています。

<9月の牛枝肉相場見通し>

9月以降も気温は平年に比べ高めと予測されており、猛暑による消費減退や台風シーズン等でもあり、それらの影響も懸念される。ただし、全国出荷頭数は少なく和牛は全般的には保合いで推移か。後半には連休が 2 週続き、それらに向けた手当てなどで交雑牛中心の引き合いが強まり、堅調な相場が予測される。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,750～2,850	B4	1,650～1,750
A4	2,400～2,500	B3	1,500～1,600
A3	2,200～2,300	B2	1,300～1,400
A2	1,950～2,050		
乳牛去勢			
B3	1,100～1,150		
B2	1,000～1,100		

<9月の牛肉輸入量予測>

財務省が発表した貿易統計による 7 月の輸入牛肉通関実績によると、牛肉輸入数量は前年同月比 16.2%増の 6 万 5,557t と前年を大きく上回った。チルドは 17.8%増の 2 万 5,964t で、需要期に向けた手当てにより前月を 2,500t 増加し、フローゼンも 15.1%増の 3 万 9,593t となり、SG 回避のため未通関だった分が通関されたことによる影響で大幅な増加となっている。ただ、この大量輸入に対し猛暑による需要減から、現状では多くの在庫を抱える状況となっている。農畜産業振興機構の公表予測による 8 月の輸入量は 5 万 6,000 t で前月の公表から 3,300t わずかに上方修正され、前年同期比でも 20.2%と大きく増加する見通しとなっている。9 月の牛肉輸入数量予測では、前年比 12.2%減の 5 万 3,500t。チルドは、前年同月比 6.3%減の 2 万 4,000t で、前月同様に米国産の輸入量が大幅に増加した前年同月の反動で減少が見込まれ、同月も同様の状況が続くと予測されている。フローゼンは、豪州産が大幅に増加した前年同月の反動で 16.0%減の 2 万 9,900 t と大きく減少するとしている。

輸入牛肉通関量		7月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	11,366	9,959	114.1%
	米国	13,273	11,138	119.2%
	その他	1,325	945	140.2%
	合計	25,964	22,042	117.8%
フローゼン	豪州	20,399	13,849	147.3%
	米国	14,914	15,315	97.4%
	その他	4,280	5,228	81.9%
	合計	39,593	34,392	115.1%

単位：t 出典：食肉速報

9月小動物事業部

農畜産業振興機構によると6月の豚肉需給動向によると、推定出回り量は、国産品 7 万 1,104t（同 97.6%）、輸入品 7 万 6,855t（同 96.6%）、合計で 14 万 7,959t（同 97.1%）と前年同月を下回った。これにより、推定期末在庫は国産品 1 万 7,434t（同 106.4%）、輸入品 16 万 1,087t（同 97.7%）、合計 17 万 8,521t（同 98.5%）と減少した。

7月の全国と畜頭数は前年同月比 3.5%増の 127 万 3,092 頭と前年より増加した。同月の豚肉通関実績は、総量で 7 万 8,157t（104.8%）と前年を上回り、前月からは 1,415t 増加した。チルドは 3 万 2,484t（同 107.6%）と増加。内訳は、米国 1 万 6,774t（同 108.5%）、カナダ 1 万 4,666t（同 105.6%）、メキシコ 1,031t（同 121.4%）と増加した。同じく、フローゼンも 4 万 5,673t（同 102.8%）と増加し、内訳は、デンマーク 1 万 974t（129.8%）、スペイン 1 万 242t（同 94.1%）、メキシコ 5,823t（同 90.5%）、米国が 4,265t（同 125.6%）、カナダ 3,869t（同 107.8%）となった。

<8月の豚取引の推移>

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	54,200	719	685	506
2日	57,300	694	655	590
3日	56,900	724	698	648
6日	60,000	729	706	521
7日	62,100	734	685	939
8日	60,500	636	601	746
9日	63,900	647	642	658
10日	60,900	605	566	872

上旬の全国と畜頭数は1日あたり5万9,475頭。

当市場は平均685頭。

猛暑の影響で豚の成育にも影響が出始めており、上場頭数が少ないことに加え、枝肉重量が小さい出荷者も出てきている状況。一方で末端消費は鈍く、荷動きは、カタロース、ヒレを除いて全体的に鈍い。

中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
16日	64,300	582	561	844
17日	66,500	599	578	845
20日	60,500	578	548	713
21日	62,600	586	571	860
22日	58,100	581	558	567
23日	61,700	577	550	757
24日	59,100	585	554	735

中旬の全国と畜頭数は1日あたり6万1,828頭。

当市場は平均760頭。

盆休み明けは600円を割り込む展開となり、補充手当も期待されたが、消費の大きな伸びはなく、比較的静かな相場展開となった。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
27日	59,900	562	543	527
28日	62,200	560	538	801
29日	53,800	537	521	630
30日	61,900	532	507	801
31日	59,200	543	522	1,000

下旬の全国と畜頭数は平均1日あたり5万9,400頭。

当市場は平均752頭。

出荷頭数は旧盆以降も増えておらず、全体的に荷余り感などはない。ヒレや、カタロースなどの荷動きは引き続き堅調でバラは例年以上に引き合いは強く、今後さらに需要は高まることが予想される。ロースもスポット的な需要の増加がみられ、荷動きは悪くない。

<9月の豚枝肉相場見通し>

農林水産省による9月の全国と畜頭数予測では、前年比 2%減の 128 万 8,000 頭と予想している。今年は 3 連休が 2 週続いたため、稼働日が 18 日と前年より 2 日少なく、1 日あたりの頭数は約 7 万 1,600 頭（前年同月は 6 万 5,500 頭）となる。

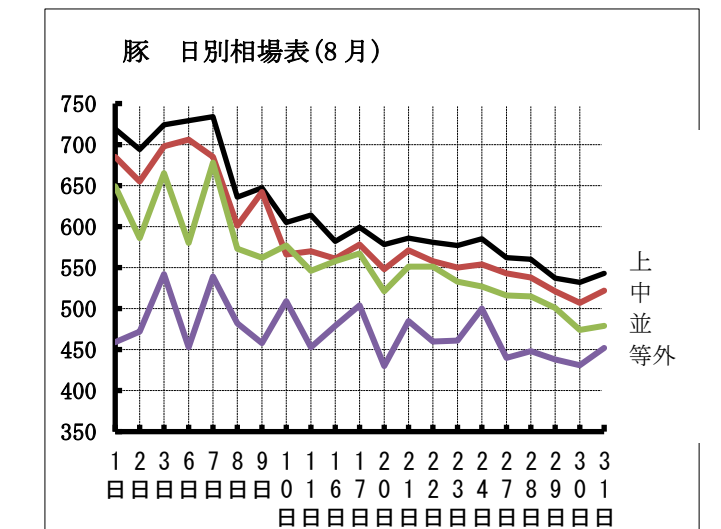
当市場の9月の集荷予定頭数は1万5,500頭となり、1日あたりでは約861頭の見込みである。

また、農畜産業振興機構によると9月分の豚肉輸入見込数量は、総量で7万4,800t（前年同月比102.5%）の予測となっている。内訳はチルドが3万1,900t（同101.6%）、フローゼンは4万2,900t（同103.1%）の予測である。

猛暑による増体率の低下は、関東近辺の産地ではいまだ回復しておらず、産地によってはバラツキが生じている。引き続きこの状況が9月上旬までは続くことが予想されるが、中旬以降は秋らしい気候となり、後半にかけて出荷頭数が増えるという例年通りの供給パターンになりそうだ。後半の豚価動向によっては出荷の早出しも予想され上場頭数次第では相場にも影響しそうだ。

例年、盆休み明けはロースの需要が鈍る時期となるが今年はロース、カタロースの動きは良く、スソ物の動きが悪い状況が続いているが9月は給食需要が始まることによりスソ物の回復に期待がかかる。

以上のことから当市場の上物平均価格は530円前後、中物平均500円前後と予測する。



第58回農林水産祭参加平成30年度東京食肉市場豚枝肉共励会が8月29日～8月31日に開催され、全国12県47戸の生産者により出品頭数1,000頭の枝肉が上場された。名誉賞の農林水産大臣賞に輝いたのは茨城県笠間市の榎成田畜産の出品豚（極上・78.0kg）が選ばれ、肉質、脂肪質、体型等が全てにおいて素晴らしい枝肉であった。枝肉単価1万5,020円（税抜）で（株）ウスネフードが競り落とした。

出荷者、購買者の皆様及び関係各位の方々のご協力ありがとうございました。

東京都港区港南2-7-19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127

URL <http://www.tmmc.co.jp/>